

令和	7	年度	人	材	育	成	事	業
受	講	生	募	集	の	ご	案	内

東京都認定職業訓練

鍛造マネージャー育成塾コース

普通職業訓練(短期課程)鍛工品製造業科…………… P.1～P.4

鍛工品製造業実践型人材養成コース

普通職業訓練(短期課程)鍛工品製造業科…………… P.5～P.6

鍛造技術通信講座

技能士コース普通職業訓練(短期課程)鍛造科……………P.7～P.8

鍛造技術通信講座

普通コース ……………P.9

鍛造マネージャー育成塾コース

普通職業訓練

(短期課程)

鍛工品製造業科

鍛造マネージャー育成塾コースでは下記のスキルを修得することを目的とし、座学、実証実験、プレゼンテーションを盛り込んだカリキュラムとしています。また、本コースは、岐阜大学と産学連携事業であり、13科目のうち3科目を岐阜大学大学院の特論学生として大学院生と一緒に受講いただきます。

- ① 理論・原理・原則を関連づけて理解する力。
- ② 現場の問題及び課題を解決する力。
- ③ 工場経営に必要なマネジメントにかかる知識を修得し、ユーザー等に対して製品の技術、品質、信頼性が説明でき、且つ提案のできる力。

受講資格	企業に属している方で実務経験5年以上、且つ国家検定「技能検定鍛造職種」有資格者、又はそれと同等の鍛造に関する知識を有する方	
定員	20名 (最少開講人数 15名)	
受講期間	令和7年4月から令和8年3月まで(1泊2日で13回、計143時間の講義)	
受講費用	当協会会員	374,000円(税込)/名
	非会員	484,000円(税込)/名
	日本塑性加工学会会員	404,800円(税込)/名
	注1) 講義会場までの交通費、宿泊費、食事などは各自負担です。実証実験科目において加工費等実費を請求する場合があります。	
	注2) 「鍛工品製造業実践型人材養成コース」の修了者は上記料金を10%割引させていただきます。	
	注3) 受講途中で退校されても、返金いたしかねますのでご了承ください。	
修了証書	本講義を修了された方に対し「鍛造マネージャー育成塾コース修了証書」を発行します。	
修了要件	講義日数26日中、20日以上出席すること。	

※受講申込ご案内は10頁をご覧ください。

❖ 鍛造マネージャー育成塾コース日程 (予定)

開催日	内容	開催場所		
4月23日(水) 4月24日(木)	<p>科目1 鍛造概論</p> <p>鍛造技術の概要/鍛造方法と鍛造品/自動車会社における鍛造/プレゼンテーション</p> <table border="0"> <tr> <td> <p>■学習のねらい・目標 (ゴール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近の鍛造事例や、鍛造方法と鍛造製品との関係を理解する。 ・鍛造現場の問題解決成功の事例に基づく討論から課題解決の重要性を学ぶ。 ・鍛造品のユーザ提案事例に基づく討論から工場経営の考え方、経営者が対処すべき事例などを理解する。 </td> <td> <p>■講義概要</p> <p>鍛造の歴史と現状、鍛造技術の世界的な動向の講義及び鍛造全般を経験してきた先輩による経験談と事例討論によって我が国鍛造業界の中核人材にもとめられる「問題・課題解決能力」「ユーザへの提案力」の能力の重要性を理解して、日常行っている鍛造関係の業務の位置づけを理解できるようにする。</p> </td> </tr> </table>	<p>■学習のねらい・目標 (ゴール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近の鍛造事例や、鍛造方法と鍛造製品との関係を理解する。 ・鍛造現場の問題解決成功の事例に基づく討論から課題解決の重要性を学ぶ。 ・鍛造品のユーザ提案事例に基づく討論から工場経営の考え方、経営者が対処すべき事例などを理解する。 	<p>■講義概要</p> <p>鍛造の歴史と現状、鍛造技術の世界的な動向の講義及び鍛造全般を経験してきた先輩による経験談と事例討論によって我が国鍛造業界の中核人材にもとめられる「問題・課題解決能力」「ユーザへの提案力」の能力の重要性を理解して、日常行っている鍛造関係の業務の位置づけを理解できるようにする。</p>	<p>ウインクあいち 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目 4-38</p> <p>トヨタ自動車株式会社本社工場 愛知県豊田市トヨタ町1番地</p> <p>名古屋工業大学 愛知県名古屋市中村区御器所町</p>
<p>■学習のねらい・目標 (ゴール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近の鍛造事例や、鍛造方法と鍛造製品との関係を理解する。 ・鍛造現場の問題解決成功の事例に基づく討論から課題解決の重要性を学ぶ。 ・鍛造品のユーザ提案事例に基づく討論から工場経営の考え方、経営者が対処すべき事例などを理解する。 	<p>■講義概要</p> <p>鍛造の歴史と現状、鍛造技術の世界的な動向の講義及び鍛造全般を経験してきた先輩による経験談と事例討論によって我が国鍛造業界の中核人材にもとめられる「問題・課題解決能力」「ユーザへの提案力」の能力の重要性を理解して、日常行っている鍛造関係の業務の位置づけを理解できるようにする。</p>			
5月19日(月) 5月20日(火)	<p>科目2 鍛造品とその評価</p> <p>鍛造品の適用運用機能の性能/鍛造品の設計と重要性/鍛造と品質管理/部品の軽量化への取組(アルミ・チタンの鍛造品への適用)/鍛流線と強度・タフネスの確認実験</p> <table border="0"> <tr> <td> <p>■学習のねらい・目標 (ゴール)</p> <p>鍛造品の特徴と機能・品質及び鍛造現場の管理方法を理解し、競争力の高い鍛造品の開発や生産、軽量化の考え方を習得。鍛造品の設計から品質管理まで現場に直結した高効率な取り組みを理解する。</p> </td> <td> <p>■講義概要</p> <p>自動車等輸送用機器や土木建設機械、重電機産業、造船・産業機械、航空機などに使用されている代表的な鍛造品と鍛造品に要求される機能品質及び製造工程、管理ポイントについて講義を行い鍛造品の軽量化などを通して競争と生産するための品質管理について学習する。</p> </td> </tr> </table>	<p>■学習のねらい・目標 (ゴール)</p> <p>鍛造品の特徴と機能・品質及び鍛造現場の管理方法を理解し、競争力の高い鍛造品の開発や生産、軽量化の考え方を習得。鍛造品の設計から品質管理まで現場に直結した高効率な取り組みを理解する。</p>	<p>■講義概要</p> <p>自動車等輸送用機器や土木建設機械、重電機産業、造船・産業機械、航空機などに使用されている代表的な鍛造品と鍛造品に要求される機能品質及び製造工程、管理ポイントについて講義を行い鍛造品の軽量化などを通して競争と生産するための品質管理について学習する。</p>	<p>千葉県高度ポリテクセンター 千葉県千葉市美浜区若葉3-1-2</p>
<p>■学習のねらい・目標 (ゴール)</p> <p>鍛造品の特徴と機能・品質及び鍛造現場の管理方法を理解し、競争力の高い鍛造品の開発や生産、軽量化の考え方を習得。鍛造品の設計から品質管理まで現場に直結した高効率な取り組みを理解する。</p>	<p>■講義概要</p> <p>自動車等輸送用機器や土木建設機械、重電機産業、造船・産業機械、航空機などに使用されている代表的な鍛造品と鍛造品に要求される機能品質及び製造工程、管理ポイントについて講義を行い鍛造品の軽量化などを通して競争と生産するための品質管理について学習する。</p>			

開催日	内容	開催場所
<p>6月12日(木) 6月13日(金)</p>	<p>科目3 鍛造用材料と熱処理 塑性変形(変形機構、変形抵抗、延性)/鍛造用材料/熱処理の基礎技術/実験(変形抵抗測定、鍛造性評価試験) /実験結果の発表</p> <p>■学習のねらい・目標(ゴール) ・鍛造材料の全体的な特性を理解し、応用する力を身につける。 ・鍛造材料の熱処理の概要を理解する。</p> <p>■講義概要 鍛造に使用される鉄鋼材料及び非鉄金属材料の概要、材料の鍛造特性と鍛造製品の材質に関する原理について講義し、事例研究及び見学の組み合わせによって原理を日常業務に応用する方法を紹介する。</p>	<p>じゅうろくプラザ 岐阜市橋本町1丁目10番地11</p> <p>岐阜大学 岐阜県岐阜市柳戸1-1</p>
<p>6月26日(木) 6月27日(金)</p>	<p>科目4 加工力と面圧 加工力と面圧/応力と降伏条件/ひずみ・塑性仕事・硬さ/コンピューターシミュレーションの基礎入門 /鍛造荷重の実験と計算との比較・硬さ分布測定、データ整理/結果のまとめとプレゼンテーション</p> <p>■学習のねらい・目標(ゴール) ・各種鍛造法の加工力算定式の習得。 ・加工力低減鍛造法について学ぶ。 ・各種鍛造における材料流動を理解する。</p> <p>■講義概要 各種鍛造法における鍛造に必要な加工力、面圧について講義し工具プレス機械の変形や熱が鍛造製品、金型寿命におよぼす影響について学ぶ。</p>	<p>岐阜市文化センター 岐阜県岐阜市金町5丁目7-2</p> <p>岐阜大学 岐阜県岐阜市柳戸1-1</p>
<p>7月22日(火) 7月23日(水) (予定)</p>	<p>科目5 工具と潤滑 鍛造における摩擦・潤滑・摩耗のメカニズム/熱間鍛造用の金型材料・表面処理・金型製造法/熱間及び冷間鍛造用潤滑剤/プレゼンテーション</p> <p>■学習のねらい・目標(ゴール) 鍛造の型材料や潤滑剤について学術的な知識を加え、潤滑や型の面から関連する日常課題を考える。本講義で学んだ用語を使って議論し整理する。</p> <p>■講義概要 鍛造における摩擦・潤滑・摩耗・表面損傷などの学術(トライボロジー)鍛造用金型材料や型コーティングの種類と特徴、潤滑メカニズム、摩擦評価試験の役割・種類・特徴、熱間用・冷間用の潤滑剤の種類や特徴などについて聴講し、その学びを活用して日常の課題を潤滑や型材の側面から議論し、実習で実感する。</p>	<p>名古屋工業大学 名古屋市昭和区御器所町</p>
<p>8月下旬</p>	<p>科目6 鍛造設備 鍛造加工における周辺装置/鍛造機械(ハンマ・プレス・油圧プレス・フォーマ・冷鍛用プレス)/これからの鍛造加工</p> <p>■学習のねらい・目標(ゴール) ・鍛造設備に関する知識全般の習得。 ・近い将来を見据えた鍛造技術の習得と自社の鍛造品への展開の可能性を見出す能力を身につける。</p> <p>■講義概要 鍛造に使用されているハンマ、フォーマ、プレス機械をはじめ素材切断機加熱装置や搬送装置等の構造について広く全般にわたり基礎知識を習得する。理論的な設計概念も紹介し実際の運用に際し、利用するための技術に対する適応能力を養うことにより、鍛造設備全般に及ぶ知識の習得を行う。</p>	<p>未定</p>
<p>9月25日(木) 9月26日(金)</p>	<p>科目7 熱間鍛造品の工程設計 材料から検査までの工程設計/鍛造の工程設計/荒地設計/実証実験の荒地設計</p> <p>■学習のねらい・目標(ゴール) 工程設計事例の学習を通して、工程設計の広い知識を得ることを目的とする。本講義のテキストを使用し、課題を解決できる知識を身に付けることを目標とする。</p> <p>■講義概要 熱間鍛造において競争力の高い鍛造品の効率的な生産方法を事例で考える。そして、重要工程である熱間工程について、ハンマ鍛造機・プレス鍛造機を用いた場合の熱間鍛造形状ならびに工程の設計や、競争力の高い熱間鍛造品を開発してきた先輩達の経験談を学習し、演習により効率の高い生産のための熱間鍛造の設計技術を理解できるようにする。</p>	<p>すみだ産業会館(予定) 東京都墨田区江東橋3丁目9番10号</p>
<p>10月23日(木) 10月24日(金)</p>	<p>科目8 鍛造及びCAE実習 実証実験の整理、対策案検討、DEFORMによる確認/CAD・CAMの概要とコンピューターシミュレーション事例研究/鍛造デジタルエンジニアリング-鍛造版Industrie 4.0とは?-/対策案の検証</p> <p>■学習のねらい・目標(ゴール) ・既に工程設計で実施している製品を例題としてCAEの演習を行い、活用方法を習得し応用力を身につける。 ・鍛造分野での最新の取り組み事例を学ぶ。</p> <p>■講義概要 これまでの経験や事例をもとに工程設計を行い、鍛造実習を通して工程設計技術の理解を深めるとともに、コンピューターを利用した技術の知識と活用方法について習得を行う。</p>	<p>株式会社ヤマナカコーキン 千葉県佐倉市大作2-11-2</p>

開催日	内容	開催場所
11月6日(木) 11月7日(金)	<p>科目9 精密鍛造と金型生産 鍛造用金型の表面処理/精密鍛造金型の生産/精密鍛造の工程設計・金型設計・特殊設計/冷間鍛造における金型寿命/プレゼンテーション</p> <p>■学習のねらい・目標(ゴール) 冷間鍛造における ・工程・金型設計の基礎を理解する。 ・金型の寿命形態および対策方法を理解する。 ・金型加工の基礎知識を習得する。</p> <p>■講義概要 冷間鍛造を中心とした精密鍛造金型は、複雑形状品のネットシェイプ化、難加工材の精密鍛造品へのニーズの高まり、海外進出に伴う自社内製作などの重要度は益々増している。 本講座では、これらに対応する技術習得を行う。</p>	<p>JA京都ビル(予定) 京都市南区東九条西山王町1</p> <p>株式会社ニチダイ 京都府綴喜郡宇治田原町禅定寺塩谷14 京都駅よりバス移動</p>
1月22日(木) 1月23日(金)	<p>科目8 実証実験の検証</p> <p>科目10 設備保全技術 現場設備の確認/機械要素部品分解(空気圧装置)/汎用工具専用工具の選択方法/危険予知</p> <p>■学習のねらい・目標(ゴール) ・設備保全に必要な技能伝承について 作業手順書の作成を習得する。 ・人材育成を行う際に必要な伝承方法を 習得する。</p> <p>■講義概要 設備保全を行う上で、ベテラン作業者が行う作業内容について、 どのような方法で部下や後輩に人材育成を行うか、また、現場設備の 設備保全を効率よく行う場合に必要作業手順書などの作成方法 実習を通して行う。</p>	<p>千葉県高度ポリテクセンター 千葉県千葉市美浜区若葉3-1-2</p>
12月16日(火) 12月17日(水)	<p>科目11 品質管理 TQM/問題解決/開発・量産試作・量産の品質管理/SQC/演習(品質保証活動・問題の発見・工程の管理)</p> <p>■学習のねらい・目標(ゴール) ・全社で活動する仕組みであるTQMを 習得する。 ・改善に役立つQC的問題解決の考え方と その流れと使用する手法を習得する。 ・改善のための工程解析と工程管理に 役立つ統計的品質管理手法を習得する。</p> <p>■講義概要 顧客満足と組織のパフォーマンス向上を狙いとした、品質経営の実践に 役立つTQM(Total Quality Management)について講義する。 この活動ではSQC(Statistical Quality Control)手法の活用と問題解決法 の活用が有効であり、演習を通して手法の活用方法について理解する。</p>	<p>すみだ産業会館(予定) 東京都墨田区江東橋3丁目9番10号</p>
2月中旬	<p>科目12 工場管理 工場管理/トヨタ生産方式(TPS)と改善の進め方/安全管理</p> <p>■学習のねらい・目標(ゴール) ・見える化を推進した管理手法を習得する。 ・安心・安全な工場衛生管理を学び、管理 監督者として安全や健康に配慮出来る 視野を持つ。 ・トヨタ式生産方式を通し、管理者として 改善の考え方や進め方を習得する。</p> <p>■講義概要 昨今、製造業を取り巻く環境は、為替や海外の人件費高騰、輸送費の 大幅な変動など急激に変化している。コスト競争力や納期対応、供給の 安定化など、変化に対応する体質作りが喫緊の課題となっている。 本科目では、工場管理者として、企業のモノづくりのあり方を探り、 効率的な工場管理とそのポイントを学習するとともに、工場管理 において最も重要な事項のひとつである安全衛生について学習する。</p>	<p>未定</p>
3月12日(木) 3月13日(金)	<p>科目13 工場経営とマーケティング 経営に対する考え方/業務改革の姿の描き方</p> <p>■学習のねらい・目標(ゴール) ・経営に対する考え方を知る。 ・DXの本質、業務改革の姿の描き方や 改革推進のための分析技法を習得する。</p> <p>■講義概要 本科目では、講師の経営・営業体験を基に経営に対する考え方を学ぶ。 また、慢性的な人手不足の中、デジタル技術を駆使した業務改革が 求められる昨今、実務者が中心となって業務改革を進めるうえで押さえ ておくべき事柄の理解と、改革を進めるために必要となる業務問題 分析技法を習得し、自社の競争力を高めるマネージャーを目指す。</p>	<p>すみだ産業会館(予定) 東京都墨田区江東橋3丁目9番10号</p>

※講義時間原則、1日目10:30~18:00 2日目9:00~16:00

※科目によって現場学習が設定される場合がありますが、受入先の都合によりお断りする場合があります。

◆ 講師名簿

*科目長

	氏名 (敬称略)	会社名・学校名・団体名	所属・役職
科目1	*吉田 佳典	国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学	地域連携スマート金型技術研究センター センター長 工学部 機械工学科 機械コース 教授
	石川 孝司	国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学	名誉教授
	北村 憲彦	国立大学法人 名古屋工業大学	名誉教授
	加納 秀治	トヨタ自動車株式会社	素形材技術部 塑性加工技術室
科目2	*菰田 保司	株式会社メタルアート	未来創造・DX推進センター センター長
	吉川 亮治	群馬精工株式会社	技術部 部長
科目3	*吉田 佳典	国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学	地域連携スマート金型技術研究センター センター長 工学部 機械工学科 機械コース 教授
	山下 実	国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学	工学部 機械工学科 教授
	樋口 成起	大同特殊鋼株式会社	技術開発研究所 特殊鋼材料技術研究室
科目4	*吉田 佳典	国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学	地域連携スマート金型技術研究センター センター長 工学部 機械工学科 機械コース 教授
	西脇 武志	大同大学	工学部 機械工学科 教授
	山下 実	国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学	工学部 機械工学科 教授
科目5	*北村 憲彦	国立大学法人 名古屋工業大学	名誉教授
	阿部 行雄	株式会社プロテリアル	特殊鋼事業部 工具鋼部 技術グループ
	宇田 紘助	大同化学工業株式会社	技術研究所 第3研究室 熱鍛G
	小見山 忍	日本パーカラizing株式会社	経営企画室 スペシャリスト
	中村 保	国立大学法人 静岡大学	工学部 名誉教授
科目6	*竹内 肇	伊藤機工株式会社	取締役社長
	山下 拓郎	コマツ産機株式会社	開発本部 開発2部 本体グループ
	大西 健晴	住友重機械工業株式会社	産業機器事業部 製造部 生産技術グループ 首席技師
	加藤 大地	旭サナック株式会社	品質保証部 次長
	松枝 隆章	株式会社大谷機械製作所	製造部 検査課 課長
	森 孝信	森鉄工株式会社	代表取締役専務
科目7	*結城 和久	株式会社ゴーシュー	技術部 工程設計課 課長
	大橋 隆弘	国土館大学	理工学部 教授
	菰田 保司	株式会社メタルアート	未来創造・DX推進センター センター長
科目8	*金 秀英	株式会社ヤマナカコーキン	技術企画担当 部長
	藤川 真一郎	日産自動車株式会社	パワートレイン生産技術開発本部
科目9	*永 富一成	株式会社ニチダイ	営業技術本部 技術部 部長
	青松 明宏	ユケン工業株式会社	TL事業部 技術・開発課 サブスペシャリスト
	角南 不二夫	株式会社ヤマナカコーキン	社長付 技監
科目10	*竹野 俊夫	独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 高度ポリテクセンター	素材・生産システム系能開教授
科目11	*奥原 正夫	一般財団法人日本科学技術連盟	品質経営推進センター 技術顧問
	岡本 眞一	東京情報大学	総合情報学部 名誉教授
	内田 治	東京情報大学	総合情報学部 非常勤講師
科目12	*竹内 肇	伊藤機工株式会社	取締役社長
	首藤 彰彦	大同特殊鋼株式会社	君津工場 工場長
	松本 将生	トヨタ自動車株式会社	衣浦工場 鋳鍛造部 製造技術員室
科目13	*青木 隆宜	株式会社ISS山崎機械	常務取締役工場長
	渡辺 郁雄	NPOテクノサポート	システムアナリスト

鍛工品製造業実践型人材養成コース

普通職業訓練（短期課程） 鍛工品製造業科

鍛造全般に関する知識を習得したい方を対象

鍛造及び鍛造の技術全般の知識を身につけたい、深めたい方のための現場に直結したカリキュラムです。このスクーリングでは次頁に掲げる教科について講義、現場学習、グループ討議、プレゼンテーション、パネルディスカッションを行い、修了者には修了証を発行いたします。

受講資格	企業に属している方
定員	最少開講人数 12名
受講期間	令和7年5月から令和8年3月まで(1泊2日で10回、計106時間の講義)
受講費用	当協会会員 231,000円(税込)/名 非会員 346,500円(税込)/名 注1) 講義会場までの交通費、宿泊費、食事などは各自負担です。 注2) 受講を途中でやめられましても、返金いたしかねますのでご了承ください。
修了要件	① 欠席は原則として20日のうち4日まで。ただし、やむを得ない事情がある場合はその限りではない。 ② 遅刻と早退の場合、遅刻と早退の判断基準を30分とする。また、遅刻及び早退2回で欠席1回とする。

※受講申込ご案内は10頁をご覧ください。

講師名簿

氏名(50音順 敬称略)	会社名・学校名	所属・役職
朝比輝男	一般社団法人日本鍛造協会	研修教育委員会 委員
有馬達男	鍛造技術開発株式会社	代表取締役社長
奥原正夫	一般財団法人日本科学技術連盟	品質経営推進センター 技術顧問
小野宗憲	大同大学	名誉教授
加藤貴洋	株式会社イテタン	生産管理部 部長 兼 IT推進課長
田中慎二	日本製鋼所M&E株式会社	素形材製造部 部長
佐々木幸治	テクノメタル株式会社	技術士(金属部門)
首藤彰彦	大同特殊鋼株式会社 君津工場	工場長
鈴木達志	株式会社ジェイテクトコーティング	生産技術部
竹野俊夫	(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構 高度職業能力開発促進センター	素材・生産システム系 能開教授
廣田智之	株式会社ヤマナカゴーキン	理事 マーケティング&カスタマーサクセス エキスパートチーム
藤村伸治	(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構 福島支部 福島職業能力開発促進センター	相談役



❖ 鍛工品製造業実践型人材養成コース日程(予定)

	月日	教科	内容	開催地
1	5月15日(木) 5月16日(金)	オリエンテーション(会長挨拶、自己紹介、他)		東京
		特別教科	リーダー・管理者のための現場改善力向上(気づき力、伝達力、創造力)	
		教科1	鍛造の基礎知識 鍛造加工の種類と特徴/温度による鍛造の分類・鍛造業の概要(素形材産業における鍛造業、国内外の鍛造品生産量、等)/素材について(鋼材の分類、機械構造物材料に要求される機械的性質、鍛造品用材料の選び方、等)/鍛造の力学入門	
2	6月16日(月) 6月17日(火)	教科2	安全衛生 鍛造業における災害事例/ヒューマンエラー/ハットヒヤリトレーニング/法的責任/リスクアセスメント	東京
		教科3	品質管理 基礎から学ぶ品質管理 品質管理(QC)、総合的品質管理(TQM)/品質/QCのもの見方、考え方/QC手法(Q7、N7、R7など)/品質保証(QA)、日常管理と方針管理/人材育成、継続的な改善、QCサークル/ISO	
3	7月17日(木) 7月18日(金)	教科4	鍛造設備 鍛造設備の概要【鍛造機械】【周辺設備】	東京
		現場学習	MF-TOKY02025 見学 東京ビッグサイト	
4	8月上旬 (予定)	教科5	型鍛造 型鍛造の概要/ハンマ鍛造/プレス鍛造/アブセッタ鍛造 型鍛造の自動化	調整中
		現場学習	調整中	
5	9月8日(月) 9月9日(火)	教科6	型設計 金型の概要(概要、材料、加工、表面処理) 型設計(設計、公差企画、工程設計、金型設計) 型寿命と型潤滑	東京
6	10月2日(木) 10月3日(金)	教科7	自由鍛造 鍛鋼品の品質とは/鍛鋼品の製造工程/製鋼の役割と鋼塊の性状 鍛錬効果/熱処理の役目	北海道
		現場学習	日本製鋼所M&E株式会社 室蘭製作所	
7	11月4日(火) 11月5日(水)	教科8	冷間鍛造 冷間鍛造の基礎/金型設計/工程設計と欠陥/鍛造設備	千葉
		教科9	検査 品質保証と検査/材料検査/試作時検査/自主検査/パトロール検査/出荷検査/金型検査	
		現場学習	株式会社ヤマナカコーキン 東京工場	
8	12月3日(水) 12月4日(木)	教科12	設備保全 油圧、空気圧装置の構造や仕組みについて (損傷事例・事故事例の紹介、実習含む) 設備のボルト・ナットの構造や仕組みについて (損傷事例・事故事例の紹介、実習含む)	千葉
9	1月27日(火) 1月28日(水)	教科11	生産管理 生産を取り巻く環境/生産管理の概要/生産活動の流れと生産管理/需要予測/工程管理/生産計画/生産統制/在庫管理/かんぱん方式	愛知
		教科10	熱処理 熱処理とは/熱処理の目的/鉄鋼について/鋼の組織と変態/基本的な熱処理/鋼の表面処理/熱処理設備/熱処理検査	
10	3月5日(木) 3月6日(金)	教科13	製図・図面の基礎知識 機械製図の基礎/線と文字/投影法/尺度・寸法記入法/寸法公差/幾何公差/表面性状/表面性状の図示方法/CAD製図	東京
		特別教科	問題解決セミナー	
		グループ討議、プレゼンテーション		

※日程、講義時間及び開催地区については変更になる場合があります。予めご承知おきください。

※講義時間原則、1日目 11:00~18:00 2日目 9:00~16:00

	令和7年								令和8年	
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
認定訓練課程	添削指導(30問/月)								面接指導(スクーリング)◇ 修了時試験◎	

	講座科目		講座科目
7年5月	材料、材料切断及び熱処理	12月	法規、安全衛生、電気の基本
6月	鍛造設備、機械、装置	8年1月	型鍛造全般(Ⅱ)
7月	型設計、金型製作・整備及び機械工作法	2月	面接指導(スクーリング)、修了時試験
8月	加熱、加熱装置、型潤滑	3月	(追試験) 認定訓練修了証の交付
9月	鍛造方案及び設備保全		
10月	型鍛造全般(Ⅰ)	9月	技能士検定(国家試験)実施公示 詳細は都道府県職業能力開発協会へお問い合わせください。
11月	製図、図面の基礎、品質管理、欠陥及び検査		

❖ 1級技能士コース面接指導 (スクーリング) 時間表 (予定)

時刻 令和8年	午前			昼休	午後				
	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
第1日 2月5日(木)						法規、安全衛生 13:30~15:30		製図、図面 15:30~17:30	
第2日 2月6日(金)	金型・機械工作法、機械・装置、電気 9:30~13:00					材料、熱処理 14:00~17:30			
第3日 2月19日(木)	プレス/ハンマ型鍛造法 9:30~13:00					鍛造方案、型潤滑剤、設備保全 14:00~17:30			
第4日 2月20日(金)	品質管理、欠陥及び検査 9:30~12:30					修了時試験 14:00~16:00			

❖ 2級技能士コース面接指導 (スクーリング) 時間表 (予定)

時刻 令和8年	午前			昼休	午後				
	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
第1日 2月5日(木)						製図、図面 13:30~15:30		法規、安全衛生 15:30~17:30	
第2日 2月6日(金)	材料、熱処理 9:30~13:00					機械工作法、金型、機械、装置、電気 14:00~17:30			
第3日 2月19日(木)	鍛造方案、型潤滑剤、設備保全 9:30~13:00					プレス/ハンマ型鍛造法 14:00~17:30			
第4日 2月20日(金)	品質管理、欠陥及び検査 9:30~12:30					修了時試験 14:00~16:00			

II 普通コース 《期間9ヶ月》

普通コースは、鍛造に従事する人が知っておくべき技術的な知識の向上に役立てていただくことを目的に多肢択一法で出題し、好評をいただいております。技能検定資格習得のためにもご活用いただければ幸いです。

受講資格 資格に制限はありません。

募集人員 最少開講人数 20名

受講期間 令和7年5月～令和8年1月

実施方法の要点

(1) 添削指導

令和7年5月～令和8年1月(9ヶ月間)に、毎月30問の試験問題を送付し、提出された答案に対し採点を行い、解説を付して返送します。また、会社でお申し込みいただいた場合、各受講者個人あてに成績結果を送付する他、貴社受講生成績一覧表をご担当者にお送りいたします。

(2) 修了要件

添削指導全9回のうち7回提出、なおかつ全9回270問のうち、正解率が60%以上の場合、修了証書を発行いたします。

例) 答案を8回提出し、8回の総正解数が200問の場合、 $200/270 \times 100\% = 74\%$

答案を9回提出し、9回の総正解数が150問の場合、 $150/270 \times 100\% = 55\%$

参考図書

別添の「試験問題・出題範囲参考図書購入申込書」にご記入の上、「受講申込書」と一緒にご送付ください。この講座を受講する方に限り、期間限定特別価格にて頒布します。

※ 特別価格期間: 令和7年5月31日受注分まで

- [参考テキスト] ① 鍛造技術講座 生産技術編 ② 鍛造技術講座 製造技術編
 ③ やさしい鍛造技術 ④ 鍛造用語辞典
 ⑤ 鍛造現場のQ&A ⑥ 鍛造技術講座 型設計

受講料

当協会会員 22,000円(税込)/名
 非会員 44,000円(税込)/名

注1) 「鍛工品製造業実践型人材養成コース」「鍛造マネージャー育成塾コース」の修了者は上記料金を10%割引させていただきます。
 注2) 受講を途中でやめられましても、返金いたしかねますのでご了承ください。

※受講申込ご案内は10頁をご覧ください。

❖ 普通コース《期間9ヶ月》 日程

出題月	科目	出題範囲	出題月	科目	出題範囲
5月	1 鍛造の基礎知識	・鍛造加工の種類及び特徴 ・温度による鍛造の分類 ・金属材料の種類、性質及び用途 ・鋼の組織 ・加工理論	9月	6 鍛造加工(2)	・金型の概要 ・金型の種類 ・金型材料、特性及び加工方法 ・表面処理 ・型寿命 ・型潤滑
6月	2 設備、機械装置	・切断機 ・加熱炉 ・鍛造用機械 ・熱処理設備 ・ショットブラスト ・検査装置	10月	7 鍛造加工(3)	・鍛造品の設計 ・鍛造品の公差 ・工程設計 ・金型設計
7月	3 安全衛生、環境	・労働安全衛生の基礎知識 ・環境 ・法規	11月	8 鍛造加工(4)	・自由鍛造 ・冷間鍛造
	4 製図、電気	・製図、図面の基礎知識 ・電気の基礎知識	12月	9 検査	・各種検査
8月	5 鍛造加工(1)	・ハンマ型鍛造 ・プレス鍛造 ・アブセッタ鍛造 ・非鉄金属の鍛造	12月	10 熱処理	・鋼の熱処理 ・表面処理
			12月	11 欠陥	・材料及び鍛造加工による欠陥
			1月	12 品質管理	・品質管理の基礎知識
			1月	13 生産管理	・生産計画にかかる基礎知識

受講申込ご案内

申込締切

鍛造マネージャー育成塾コース…………… 令和 7年 3月21日(金)

鍛工品製造業実践型人材養成コース…………… 令和 7年 4月11日(金)

鍛造技術通信講座…………… 令和 7年 4月 4日(金)

申込方法

➤ お手数ですがコース毎の申込書を、メールまたはFAXにてご提出ください。

添付書類

鍛造マネージャー育成塾コース	受講申込書……………①
鍛工品製造業実践型人材養成コース	受講申込書……………②
鍛造技術通信講座	受講申込書「技能士コース」…③ 受講申込書「普通コース」…④ 参考図書購入申込書……………⑤

* 受講申込書(wordファイル)はホームページよりダウンロードできます。

助成金

鍛造マネージャー育成塾コース、鍛工品製造業実践型人材養成コース及び鍛造技術通信講座技能士コースの面接指導(スクーリング)部分は、下記助成金の対象となる場合があります。

詳細は、下記ホームページをご参照ください。

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyufukin/pageL07.html 雇用調整助成金

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyufukin/d01-1.html 人材開発支援助成金

案内、申込書は当協会ホームページにも掲載しております。

申込先／問合せ先



一般社団法人日本鍛造協会 <https://www.jfa-tanzo.jp/>

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-9-2 本栄ビル 9F
TEL 03-5643-5321 FAX 03-3664-6470 e-mail : jinzai@jfa-tanzo.jp